

令和6年度 第1回 松戸市子ども・子育て会議 議事録

1. 日 時	令和6年7月26日（金）18:30～20:30
2. 場 所	市役所議会棟3階特別委員会室及びZoomによるオンライン開催
3. 出席者	<委員>（50音順）14名 池田委員、石田委員、市之瀬委員、今仲委員、荻野委員、奥村委員、坂委員、坂野委員、竹内委員、寺田委員、百田委員、堀口委員、松本委員、渡部委員 <松戸市> 子ども部長、子ども政策課長、子ども未来応援課長、児童給付担当室長、子ども居場所課長、こども家庭センター所長、母子保健担当室長、幼児教育課長、保育課長、保育運営担当室長、指導監、事務局（子ども政策課）ほか
4. 傍聴者	1名
5. 次 第	議題 第3期松戸市子ども総合計画の策定について 意見交換 子どもの意見聴取・反映及び少子化対策について
6. 資 料	〔資料1ー1〕第3期松戸市子ども総合計画の策定について 〔資料1ー2〕第3期松戸市子ども総合計画の策定に向けて（骨子案） 〔資料1ー3〕松戸市子ども・子育てに関するアンケート調査報告書 〔資料2〕意見交換参考資料

1 開会及び会議の成立について

（事務局）

委員の半数以上が出席（17名中14名出席）。

「松戸市子ども・子育て会議条例」第6条第2項の規定により、会議の成立を報告。

2 子ども部長挨拶

3 傍聴者の受入れ及び議事録の作成・公開について

（事務局）

「松戸市情報公開条例第32条」の規定により、公開を原則として会議を開催し、傍聴者の受入れを許可したい。本日の傍聴の申し出は1名。

また、当会議については議事録を作成の上、公開したい。議事録作成のため、Zoomによる録音・録画についても許可願いたい。

(坂野会長)

特段異議等ないので、公開を了承する。

4 議題

第3期松戸市子ども総合計画の策定について

資料1-1、1-2を用いて、担当課より説明を行った。

(寺田委員)

膨大なアンケートや資料など、市民の声をくみ取りながら、松戸市が子どもについて様々な面から考えようとしていると感じ、まずは感謝したい。

今回、子どもの「誰でも」というところが強調され、虐待やヤングケアラーといったところにも目を向けて行かなくてはならないと盛り込まれている。これは本当に難しいと感じている。当事者の子どもは、なかなか自覚を持てず、困っていても大人に実情を言うことも難しい。そのあたりも丁寧に拾って考えていく必要があるのではないかと思った。

(坂委員)

第2期計画策定の際には、非常に多くの施策があって、何がどうなっているのか戸惑いがあった。今回は整理して推進するということを聞き、まとめていくところの支援をしていきたい。

(荻野委員)

資料が大変丁寧に作られていると思った。特に、資料1-1の12ページ「5 第3計画のポイント」が分かりやすく目標とされていて、良いと感じた。

(今仲委員)

難しい内容なので、私も一生懸命勉強させていただいている。書いてあることはすごく分かりやすく、これに基づいてどう進めていくのかも勉強していきたい。

(市之瀬委員)

学校現場でも、家庭教育の力が弱くなっていると感じる。今後ご家庭における教育をどのようにサポートしていくかが重要で、どのように子どもたちの学力向上、社会に参画していく力を身に着けるのか考えているところなので、今の現場に即していると感じた。

(百田委員)

アンケート調査は、継続的に同じ年齢の子どもたち、保護者に調査をすることも大きな意味があると思うが、放課後児童クラブを利用している子どもをみると、小学5年生よりも、小学1年生、2年生の低学年の方が、自己肯定感や自意識といった成長の過程でいう大きな変革、個人差が出てくる。また保護者との関係も大きく変化していく時期である。

もし調査をする機会があれば、5年生だけでなく、是非、低学年の意見も取り上げていただけると良いと思う。

（堀口委員）

すごくびっくりしたのは、一番大事だと思われる基本理念が、高校生の提案をもとに改定したというところ。「十人十色」という言葉は、イラスト部門最優秀賞と同じ言葉を使っていて、イラストが基本理念にリンクしている印象を受けた。全体的な子どもの意見を反映したというより、イラストを描いた高校生に強く影響されているように感じた。現状について全体的に総括した上で、基本理念が改定されたという理解で良いのか。

（子ども政策課長）

コンテストで高校生の色々なご意見を聞く中、今の時代背景、これからの将来の目指すべき姿と非常にマッチしたということで、この作品がイラスト部門最優秀賞に選ばれた。基本理念は、計画が向かうべき方向性や目指すべき目標を示してみんなで共有するもので、こども基本法の目指すべき姿や我々が目指すべき姿に作品が結果的にマッチしたので、このような基本理念の設定となった。

（奥村副会長）

資料1-2の14ページ「基本目標2」にある、「子どもに向き合い、子育てに伴う喜びを実感できる「まつど」を目指します」という一文に違和感を覚えている。子育てに伴う喜びを実感できるということは悪いことではないが、その喜びは「感情」のことであり、喜びを実感するか否かは個人の自由であるという権利の観点から、感情をこういった基本目標の中に盛り込むことはどうなのかなと感じた。

（池田委員）

先日、こども家庭庁の意見聴取会に参加した。そのことがニュースになった際に、そこに来ている人は、聴取会が開催されるという情報にたどり着くような恵まれた人であり、そんな上層部の意見を聞いても意味がないといった批判的なコメントがかなり多く出ていた。意見を聞く際に、ヤングケアラーや被虐待児など、なるべく網羅的に色々な層の方々が意見を言えるようにご配慮いただければと思った。

パブリックコメントは、こういった形で行われる予定なのか。

（子ども政策課長）

網羅的に子どもたちの意見を聞くことについては、こどもモニターや、子ども食堂やこども館へ直接出向いて、子どもたちの声を聞いていければと思っている。急に我々が行っても構えてしまうので、計画のためだけでなく、今後も現場に出向いて子どもたちの意見を聞けたらと思っている。

パブリックコメントについては、素案が固まり、成案化する前のかたちになったら、松戸市のホームページに掲載するほか、各支所や図書館、行政資料センターに現物を設置し、

1ヶ月間ご意見をいただくことになる。ご意見は、メールや文書により伺う。

(坂野会長)

松戸市では、実際に子ども食堂にも職員の方が出向いて頑張っている。私も何回か子ども食堂にお邪魔したが、職員が熱心にされている点では誇りを持てる市だと思う。

5 意見交換

テーマ1 子どもの意見聴取・反映について

資料2を用いて、担当課より説明を行った。

(池田委員)

意見聴取には、まず対象者の選定が重要と感じた。また、子どもの立場になって考えたときに、社会と分断しており、社会の一員であるという意識はあまりないと思うので、その状態で社会に対して自分の意見を反映させようというのは、少し飛躍があると思う。意見の一段階前として、自分自身が社会と繋がっている感覚が持てるような機会を作っていただくことも重要と思う。私自身23年間松戸市で育ってきたが、過去に坂川が日本一汚い川と言われていたときに、市長と一緒に川に入ってゴミ拾いをしたり、今後の図書館のあり方について話し合うまちづくりワークショップに、小学生の立場から大人に混ざって参加したりした覚えがある。そういったワークショップから、自分自身が少しずつ社会と繋がっている感覚を持ったうえで、市の政策についても意見を言っていける。

(石田委員)

こどもモニターと意見交換をしたことがあるが、色々な人の意見を聞くのは大事だと思う。社会に参画していくということも、今の子どもたちがどこまで考えられるか難しいと思っている。一人ひとりの子どもたちは、色々な意見を持っているので、言いやすい環境や、松戸市が身近に感じられるような場をたくさん作ってほしい。たとえば、こども館に来てもらって、一緒にドッチボールとかをして遊びながら意見を聞くとか、上からではなく、同じ目線で意見を聞くというのは良いと思う。

子どもを養育する者として、保護者の方とお話する機会がたくさんあるが、やはり皆さん、色々な気持ちを持っている。何をしてほしいかを、いつどこで誰に話せば良いのかと思っているかと思うので、そういうときにおやこDE広場などに来ていただき、たくさん意見を聞いてもらうというのはすごくありがたいと思う。ワークショップを開くのも良いが、そこに出向くのはなかなか大変なので、皆さんがいる場所に出向いてきていただき、意見を聞いていただければすごくありがたい。私は、2期のときからこの計画に携わっているが、グループワークをしたり、大勢の中で意見を言ったり、色々な人と話すことで色々な意見が出てくるので、そういうことも企画していただけると良いと思う。

（竹内委員）

私が携わっている事業は小中学校のご家庭がメインになっているが、松戸市の中でも地域差を感じているし、学校によっては外国籍のお子さん、日本語が分からない保護者の方のお話も色々聞いているので、そういうところの意見聴取のやり方は気になるところである。先ほどから話にも出ているが、自分から情報を探してそこにたどり着く親御さんも素晴らしいと思うが、なかなかそうはいかない親御さんの方が多い。公立の小中学校というのは、基本的には子どもたち全員が所属している場なので、そういうところでアンケートや意見箱があると、より色々な層の意見や希望が出てくるかと思う。

（渡部委員）

晴香園の子どもたちは、どちらかというと内向きの子たちが非常に多い。そういう子どもたちも意見を言えるように出向いてきていただき、距離を詰めたうえで意見を聞いてくれるとありがたい。実際に、年に何回かヒアリングを行っているが、非常に本音を聞き出すのが難しく、色々な工夫が必要かと思う。

（寺田委員）

子どもの中には、乳幼児も入ると思う。乳幼児に対する政策も考えられると思うが、保護者目線ではなく、子ども目線で考えることも重要であると考えている。自分の思いや、状況を言葉に表わせない乳幼児の代弁者として、保護者のほかに、日頃子どもたちと接している保育士や幼稚園教諭、おやこDE広場など、実際に乳幼児と関わる仕事をしている方に、子どもの代弁をしてもらうことも取り入れることが必要だと考える。

（坂委員）

子どもたちから意見を聞くやり方についてだが、私たち子ども会には、ジュニアリーダーという、小学生が主体の活動の中で、中学生、高校生になった年齢の近いお兄さん、お姉さんが子どもたちを支援してくれるという組織がある。アイスブレイクになった状態だと、子どもたちは色々なことを本音で話してくれる。大人が色々質問すると希望だけを言ったりするが、彼らがうまくリードしてくれると本音で話してくれるので、そういうものも活用してはどうか。

対象者をどう選定するかだが、マイノリティな部分とマジョリティな部分というのが、子どもの中にもあると思う。お身体が悪いとか不登校など、環境によってもまったく違う。こどもモニターさんや子ども食堂に出向いている子どもたちだけではなく、そういうところに行けない子どもたちの意見をどう聞くのかを考え、その意見を何らかの形で反映させるべきだと思っている。難しい話だが、是非ご検討いただきたい。

テーマ2 少子化対策について

資料2を用いて、担当課より説明を行った。

(松本委員)

身も蓋もないが、なかなか改善するのは難しいかと思っている。実は20～24歳で結婚している人の産んでいる子どもの数は毎年変わっていない。ここに書かれているように、未婚化と晩婚化が原因になっているかと思う。私も改善点は浮かばないが、結局原因は手取りが上がらない、税金でほとんど持っていかれていることもあるし、子育てにはお金がかかるので、尻込みしてしまうところもあるかと思う。また、お子さんが必ずしも健康であるとは限らない。患者さんにもいるが、発達障害のお子さんや不登校のお子さんだったりすると、親御さんは大変で、仕事に行けないといったことも増えているので、そう考えると難しいところも多いかと思う。

(寺田委員)

色々な政策があるが、これから子どもを産み育てようという方への政策についてはこれからまだまだ考えられることがあると思う。幼稚園の教職員でも、若く子どもが好きな人が多く在籍するが、これからのお金のことを考えると子どもを産む気にはなれない、まだやりたいことがある、と言った言葉を聞く。子どもが好きだという人からそういう言葉が出る。それこそ当事者に意見を聞いてみるのも良いかと思う。

(百田委員)

少子化が語られるときに、不安定な雇用環境ということがよく言われる。だが、たくさんの職員を必要とする事業を行っているが、募集しても、募集しても人は来ないし、来た職員は短期間で辞めてしまう。ご家族とはどう話しているのか聞くと、好きなことが見つかるまで好きに過ごせば良いと話しているようで、趣味のような考えで就労している人がいる。不安定な雇用環境よりも、国民の就労意識に何か問題提起が必要かと思っている。

子育ての経済的負担が大きいとよく言うが、何をするためのお金がないと考えているのか。子どもといつもたくさん遊ぶためのお金がないと言っているのか、本当に食べもの等の生活のためのお金がないと言っているのか、その見極め、分析は重要かと思う。

(坂委員)

世界的にも厳しく、すごく重い問題。貧困で産めないのなら、途上国や開発国はどうなるのか。やはり人の心の問題だと思う。生活に不安がある、将来が見通せない、子どもには負担をかけたくない、子どもを持ってしまうと非常に厳しいなど、人の気持ちからこういう傾向になっていると思う。我々にできるのは、地域の環境を良くして、子どもを安全に育てられる地域をだんだん増やしていくことかなと思う。地域全体で、町会や子ども会などで面倒をみていける仕組み・環境があれば、安心して子どもを産める。地域コミュニティをもっと活性化させれば、お母さんたちも安心して子どもを面倒みてくれるような隣近所がいるようなエリアになる。児童館を含め、子ども居場所としての箱物はたくさんあるが、それだけではなくエリア全体で、町会や自治会で、包括的に面倒がみてもらえる仕組み・環境があれば、少しでもお役に立てると思う。

(石田委員)

坂委員のご意見はその通りだと思う。おやこDE広場では、地域子育て支援拠点事業を実施する中で、人を集めるだけではなく、そこを安心の場にしてもらったうえで、地域に戻すということを地域連携としてやっている。安心して子育てできる、たくさん色々な人がいる、子どもを守ってもらえるというような、地域コミュニティを作っていこうということは、すごく良いと思った。

少子化対策のために子育て支援というのが気になっている。子どもがいると大変だ、辛い、お金がかかるといったマイナスの意見をすごく多く聞くので、子どもは産めない、2人目、3人目は無理だという話になってしまう。このアンケートの中で、「子どもがいると毎日楽しい」という回答は7割あり、前回よりもポイントも上がっているので、そこをもっとアピールしていかないと、どんどんマイナスのことばかりになる。特に今の若い人たちは、頑張るという力をそこで発揮できないところがあるので、何かしら私たちにできることがあるのかなと思っている。

子育てはひとりではできない。父親の育休が増えているのはありがたいが、今度は別の問題が出てきている。パパが育休を取ってくれて安心なのに、それが逆に大変になったり、夫婦仲がぎこちなくなったりするといった別の課題である。でも、絶対に育休は取ってほしい。パパとママで子育てをすることが大前提だが、地域だったり、おじいちゃん、おばあちゃんだったり、みんなで守っていただき、乗り越えることで楽しいことがたくさんあるということを是非お願いしたい。

お金の支援だと何に使うのか疑問視する声も多いので、現金ではなくて子どもに使えるものを何かしら考えていただきたい。

(坂野会長)

松戸の市民、そして関係者全体で考えていかななくてはならない難しい問題だと思う。少子化対策は、先進国のほとんどが成功していない。そういう意味で、是非松戸市が先駆自治体として、そして松戸という地域がこういう問題を解決したということで、世界的にも知れ渡るように、みんなで知恵を結集できたらと思う。

6 その他

こども誰でも通園制度の本格実施を見据えた試行的事業

担当課より説明を行った。

児童福祉法改正（令和6年4月施行）に伴う地域子育て相談機関の整備について

担当課より説明を行った。

(奥村副会長)

様々な立場の委員から、貴重なご意見が出され、有意義な意見交換となったと思う。新たに何かを打ち出す際には、基本理念、つまり核となるメッセージがあって、そのもとでのパーパス、ビジョン、バリュー、行動基準というものが、階層構造で築かれていることが求められる。是非とも、今回出された意見を、今後の検討に活かしていただきたいと思っている。

また、第1期、第2期、そして第3期でも大切にしている子どもの可能性という視点については、常に意識を馳せていかないといけないのではないかとと思っている。子どもの可能性は、社会の可能性を変えろという考えは決して新しいものではなく、18世紀に保育の重要性を唱えた先人たちがすでに述べていた言葉である。子どもは生まれながらにして、様々な可能性を内に秘めていて、それを適切に開花させるのが教育であったり、保育であったり、支援であったり、我々大人の役割になる。子どもが自らの可能性を開花させることは、すなわち社会の可能性を広げることだと思っている。是非松戸市の社会の可能性を広げる第3期総合計画となるよう、委員の皆様、市職員の皆様と引き続き検討を進めていければと思っている。

○岸田文雄首相視察の様子動画を視聴。

7 閉会

(事務局)

本日の議題について、その他意見や要望等あれば、意見票又は任意の様式に記入の上、8月16日(金)までに、FAX、メール、郵便等にて事務局まで送付願いたい。

なお、次回の会議については11月頃の開催を予定している。